

2010年 2月11日 (103)

主要項目	当直長 (当直副長)	操 作 員 (A)
3. 6.9KV 1D母線受電	3. 6.9KV 1D母線受電を指示	
4. 原子炉冷温停止	4. SHCモード運転指示	3. 原子炉水温度「157℃以下」を確認し、SHCポンプA「手動起動」実施、報告
5. D/G 負荷抑制 (2) (D/G節約運転)	5. D/G起動後、24時間(冷温停止達成)を目安に負荷抑制(2)を指示	4. 負荷抑制(2)として、下記の補機を「手動停止」実施、報告 (1) CCS ポンプA又はB 1台 「手動停止」 (2) CCSW ポンプA又はB 1台 「手動停止」 (3) CRD ポンプ(A) 「手動停止」 ※その他、不要と思われる負荷については、「電源一覧表等」を確認し、必要に応じて停止を行う。 <使用済燃料プールの温度上昇が著しい場合>
6. 使用済燃料プール温度抑制の検討	6. 使用済燃料プール温度抑制を検討	1. 使用済燃料プールの温度上昇が著しい場合は、軽油タンクの消費状況を考慮したうえで検討し、必要に応じてRCWポンプを再起動し、FPCポンプにて冷却を実施する。 ※6.9KV 1D母線から1B母線を受電し、FPC F/D バイパスを調整し、FPC(B)ポンプを起動後、1B母線の各負荷をP/C・MCC単位で全てカットする。 <外部電源復旧可能な場合>
7. 外部電源復旧	7. 外部電源復旧指示	1. 外部電源復旧操作を実施、報告 <大熊線1号及び2号からの電源復旧手順は、事故時運転操作手順書第12章12-1「発電所全停」(電源復旧)の項参照> <外部電源復旧不能でNa1 & Na4軽油タンクが枯渇した場合>
8. 軽油タンク枯渇	8. 電源喪失長時間継続時操作指示	1. 電源喪失長時間継続時操作を実施、報告 <電源喪失長時間継続時操作手順は、事故時運転操作手順書第12章12-4「全交流電源喪失」(電源喪失長時間継続時操作)の項参照>